

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000505		
法人名	社会福祉法人弘成会		
事業所名	グループホームしんとみ希望の里		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字下富田字小島江629番地5 (電話) 0983-33-4561		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】 (平成20年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算6.35人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(平成20年6月25日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 75.44歳	最低 74歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北村医院、宮地歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯に併設の特別養護老人ホームと落ち着いたたたずまいとなっているが、建物に目立った表示が無いので、若干分かりづらい。居室、ホールは開放的で明るく施設特有の臭い等一切無く、清潔感がある。トイレ、浴室の手すりやその他の備品等安全面での配慮もしっかりしている。入居者にとって、心地よい環境を実現する事を最優先とする、基本的な理念に基づく職員の関わり方にも、随所に暖かい配慮が感じられる。食事や行事、看護師による毎日の体調確認及び災害対策など生活全般で、併設施設との協力的体制があり、緊急に人員の必要な際の余力が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外出に関しては、家族への積極的な働きかけ等も行われ、月1回程度は近隣のスーパー等への外出も可能になっている。洗剤や漂白剤等の取り扱いに注意を要する品物に関しては、居室とは離れた倉庫に一括して管理し、その都度持ち出すよう安全面の配慮も工夫が行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 昨年の評価を踏まえた改善への取り組みはグループホーム全体でなされているが、今回の自己評価に関しては管理者主導で作成されており、まだ必ずしも職員全体の意見集約を踏まえての自己評価とまでは至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーに関しては、固定化して意見交換がスムーズにできる体制作りはできている。一方内容は、グループホーム側からの活動内容等の報告や地域高齢者の状況に関する情報交換が主体となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月のホーム便り発行による情報の発信及び来訪者への積極的な声かけによる意見の集約には努めている。第三者委員会を設け取り組みの報告等が行われているが、ここ何年か苦情処理簿に記載されるような苦情は上げられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎年開催している納涼祭への地域住民に対する参加の呼びかけや、近隣の公民館等で実施されている「いきいきサロン」等への参加に取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービス規程にある「実践究理」「忘我友愛」「受容共存」の理念のもとで、利用者それぞれのその人らしい生き方の支援に力が注がれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り、日々のかかわりの中で、理念の共有化や確認の作業が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の複数の公民館で行われているいきいきサロンに年3～4回参加しているほか、日々の散歩の時などお互いに声掛けをするなどして、交流に努めようとしている。	○	更に、一步踏み込んで地域自治会への参加やグループホーム主催の介護相談や教室等、地域向けプログラムの実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価を受けて改善への取り組みは行われていたが、今回の外部評価に関しては資料の作成や自己評価等がほとんど管理者1人で行われている。	○	自己評価及び外部評価を処遇等改善の契機ととらえ、短期間での職員の異動を考慮し、職員全体での共有や認識を図り、積極的に活用する体制の整備を望みたい。

宮崎市新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関しては、昨年2回、今年は2月に一度開催され、グループホームの現状報告等がしんしに行われているが、まだ今年2回目の開催に到っていない。	○	限られたスタッフで、外部の人を定期的に招集し、会議を開催する事務的な煩雑さは想像できるが、開催時の会議内容を報告から参加者で検討する事項に絞るなどして、できるだけ開催頻度を増やす努力を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に数回開催される介護支援専門員連絡会議等に参加して、行政の担当者とも意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回、行事等の写真をふんだんに配したホーム便りを家族に配布している。家族等の来訪時には、職員ができるだけ日々の状況を伝える努力が行われている。その他体調の変化など緊急時には、電話で報告が行われている。	○	ホーム便り等については、利用者の顔写真が多いので、家族の了解を得た上で警察や、消防その他公的機関等への配布によるグループホームの地域理解につながる取り組みにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設け取り組みの報告等も行われている。利用者の声が日常的に集約され、グループホーム側に伝わる体制にまで到っていない。	○	法人全体として取り組んでいる納涼祭等の行事の際に、家族等に呼びかけ話を聴く場を設けたり、それらの機会を契機に家族会等の組織に向けた支援に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成13年の開設以来7年の間に管理者の交代が6回、その他の職員も30人以上が異動している。その都度、利用者への説明は行われているが、改善の必要がある。	○	法人が、多くの施設を抱えているのでできるだけ、職員にも全体を把握してもらうために短期間の異動に取り組まれている事は推察できるが、認知症という症状の特性を考慮すると、もう少し緩やかな職員の異動を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月1回、法人内で介護に関連する幅広い研修が行われている。ただ、施設外で行われる、例えば認知症介護実践研修等は、受講者が1名に留まっている。	○	職員の資質向上に向けて、多くの職員が外部の研修に積極的に参加できるような、環境の整備を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間の管理者会議に参加しているほか、個人のレベルでも施設間での交流が、散発的にはあるが行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の決定は法人から通知される。事前調査が必要な場合は、家庭訪問が行われている。家族等が、入居を検討、選択するために見学をするというより、入居決定を受けてからの入居前見学である。現状では、常に満床の事が多いので、積極的な取り組みは行われていない。	○	短期入居を行ってもらったり、不安の強い人については、家族との宿泊などの取り組みも今後期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	必要に応じて、洗濯物やお絞りをたたんでもらったり、ねじ回し等の簡単な修理も行ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が1人の時や、散歩や入浴等で個別に関わる時に、できるだけ入居者の思いや意向を聴きだす努力を行い、個々の思いを全職員で把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時に家族の意向の把握は努めている。ただ、現時点では他の職員等の日常的な情報が、必ずしもケアプランに反映される状況にまでは到っていない。	○	家族に対して、作成したケアプランの説明は行われているが、ケアプランの作成段階で、家族と共に話し合われていないケースもある。今後は計画の立案、決定、実施それぞれの過程でより密接に家族への説明に取り組むことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在、大きな変化が無い場合は、基本的な見直しの期間はほぼ6か月で行われている。様態や病状に変化等のある場合には、随時に計画の変更が行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム全員の外出に関しては、回数に限界があるので家族等へ積極的に呼びかけ、少しでも外出の機会を増やす取り組みが行われている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては、毎週の定期往診の他、夜間往診等にも積極的な嘱託医への変更が、主治医や家族等の了解を得た上で行われている。それ以外の診療科については利用者の意向に基本的に沿うような対応が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで、既に5件のターミナルケアに対応しており、入所時でのターミナルの契約は無いが、入居者の症状の進行に合わせ家族の方と「看取り介護についての同意書」が、交わされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレや洗面等についても、誘導等は入居者へのプライバシーに配慮して、さりげなく自然に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、大まかなスケジュールは立てられているが、その日の体調や入居者の希望にあわせ、柔軟な対応が行われている。お掃除等は、基本的に毎日職員が全室行っている。	○	お掃除については、利用者一人ひとりの能力の差に応じて、介入の度合いを調整する等、能力を引き出すようなよりきめ細かい対応に期待したい。

宮崎市新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接の施設の栄養士が、利用者の嗜好等も勘案しながら献立を作成している。下膳やテーブルの台拭き等も一部利用者が行っている。職員の1人が利用者と同じ物を一緒に食事している。	○	今後は、職員全員が家族のように、入居者と同じ物を食べるような取り組みにも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては、基本的に週3～4回程度行われている。入浴時間は、ある程度日中に限定されているが、その人の状態に応じたシャワー浴や介護浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設施設と協力して、花を植えたり、えんどう豆を栽培・収穫するなどの取り組みが行われている。	○	更に、野菜の栽培や取れた野菜を利用者と共に漬物にするなど、十分できる知識や技能を引き出すような取り組みにも期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見等に年2回程度は全体での外出を行っている。毎月1回ぐらいの頻度で少人数ずつドライブを兼ねて、衣類やお菓子等を買いに地域のスーパー等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	たまに1人で、ホームを出て行くような人もいないわけではないが、入り口のドアに鈴を付けるなどして、原則的に施錠は行われていない。		

宮崎市新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、さまざまな状況を想定して避難訓練が行われている。年1,2回は近隣住民にも呼びかけをして総合的な災害訓練も実施している。		今後は、夜間等の職員が手薄な体制を想定した避難訓練についても取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な食事量や尿量を日々チェックすると共に、体調の悪い時などは栄養士等の協力も得ながら、その人の体調に合わせた献立等も工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時には、共用のフロアに色鮮やかな七夕飾りと、利用者も共同で作成した貼り絵が掲示しており、明るいフロアに季節感が漂っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も清潔でさっぱりとした、居室となっている。安全面に配慮してあるとは言いつつも整い過ぎていて、利用者一人ひとりの個性に若干乏しい印象も受けた。	○	安全面を犠牲にしない範囲で、なじみの物を室内に置く等の工夫をしながら、その人らしい居室作りに工夫を凝らしていく事を期待したい。

※  は、重点項目。